



～みんなの出資で未来を創るチャレンジを応援～

西条市版SIB 事業報告集

お問合せ先

◆ 西条市SIB事業全般に関して

LOVE SAIJO
まちへの愛が未来をつくる

西条市役所 地域振興課

〒793-8601 愛媛県西条市明屋敷164番地(西条市役所本館3階)
☎ 0897-52-1346 ✉ chiikishinko@saijo-city.jp

◆ 出資に関して

PLUS SOCIAL
Investment

プラスソーシャルインベストメント株式会社

〒602-0862 京都市上京区河原町通丸太町上る出水町284番地
☎ 075-257-7814 ✉ customer@en-try.jp

はじめに

西条市版SIBは、地域の皆さんのまちづくりへの参画の手段が広がり、多様な人が関わることで、一人ひとりが暮らしやすい地域をつくることを目指しています。また実施事業者にとっては、自分たちの取り組みが地域にどんな効果を生むのかを発信し、共感の輪を広げることでその取り組みを地域に根付かせ、取り組みの可能性を大きく広げることもつながります。チャレンジする人が地域の皆さんに温かく見守られ、応援され、新たな価値を生み出すこと。そして、その生み出した価値は、さらなる地域の新たなチャレンジにつながっていくのではないかと考えています。

西条市版SIBは、西条市・株式会社愛媛銀行・プラスソーシャルインベストメント株式会社の3者協定のもと、地域課題の解決に向けて実施しています。本事業は、賛同してくれる個人や法人からの出資（投資）を事業資金として事業者がプロジェクトを実施し、プロジェクト開始前に決めておいた成果目標を達成した場合、市は交付金を中間支援組織に交付し、それを原資として出資者に出資金元本を償還するものです。

2018年度～2019年度は、「西条市特産品開発」「西条市商業地域等活性化」のテーマで実施し、2020年度以降さらに分野を拡大すべく「SDGsの達成」をテーマに実施しています。

2021年度で実施5年目を迎える本事業では、これまで9つのプロジェクトがみなさまからの出資を受けて事業を行い、成果を達成しています。

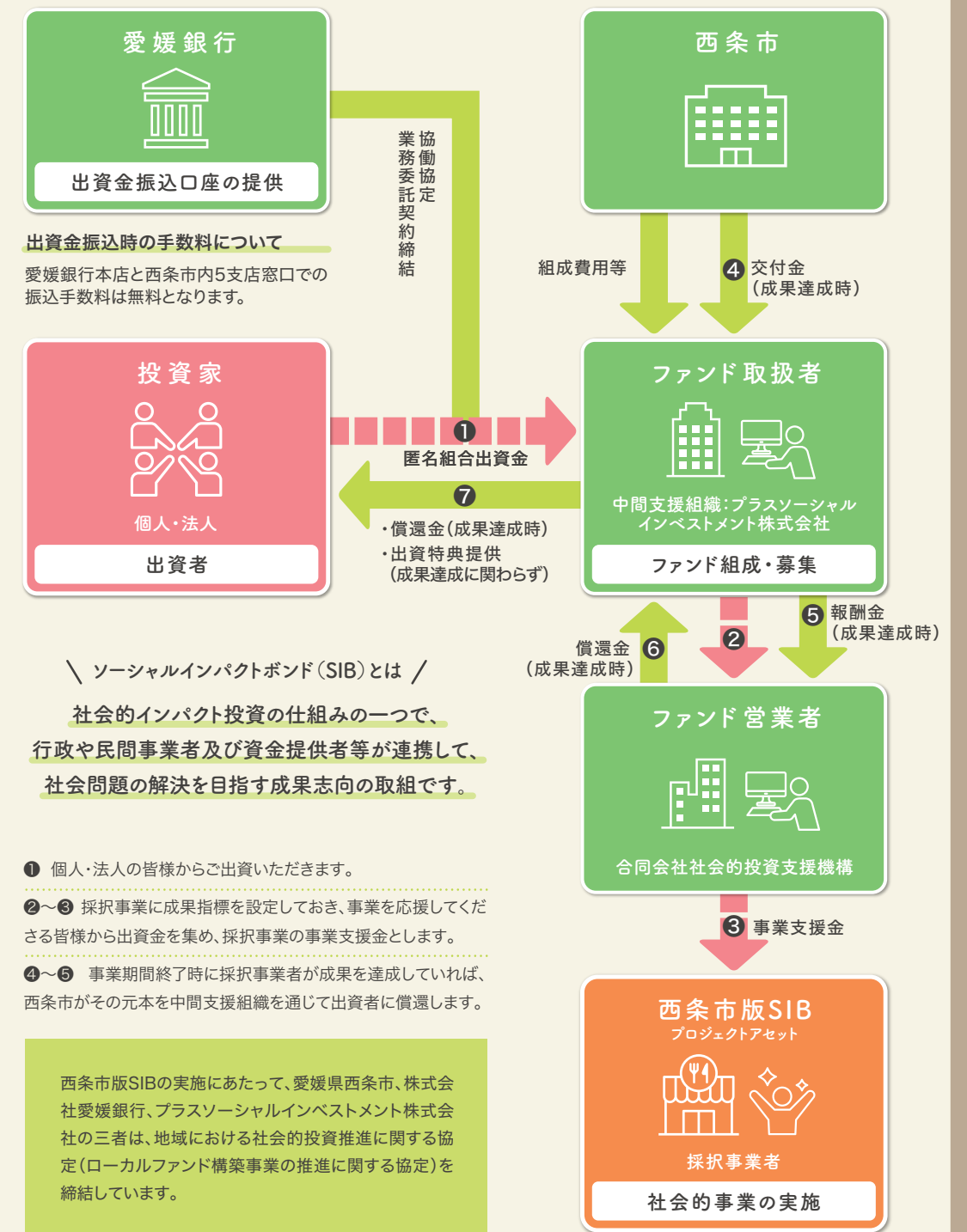
本事業は、国土交通省が推奨するまちづくり型SIB事業の成功事例として紹介されていることや、2020年9月に日経BP主催「新・公民連携最前線まちのチカラを引き出したPPPアワード2020」にて「SDGs賞」を受賞するなど、地域でSDGsに取り組む具体的手法として、SIBのモデル事業として評価されています。

この報告集は、西条市版SIBのこれまでの取り組みを振り返り、事業をさらに推進していくために必要な共通認識を創ること・広げることを目的に発行しております。
多くの皆さんに、この報告集をご覧いただけることを願っております。

INDEX

P2-3	はじめに、西条市版SIBの仕組み
P4-5	データでみる西条市版SIB
P6-7	西条市版SIB 活動事例①くらしとごはんリクル
P8-9	西条市版SIB 活動事例②たぬき本舗株式会社
P10-11	関係者からの一言メッセージ、発行者基本情報

西条市版SIBの仕組み



¥5,500,000

260人



プロジェクト数

9件

プロジェクト達成数 プロジェクト達成率

9件

100%



2021年度の再投資率

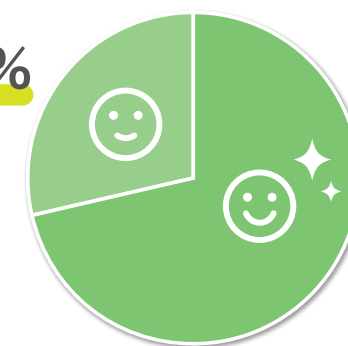
46%

運営者の満足度

※2021年度の運営者除く

ふつう

28.6%



よかった

71.4%



メディア掲載数(およそ)

129件

※2022年2月時点

事業者の事業継続度

※2021年度の運営者除く

SIB事業をもとに 新たな事業へ展開

14.3%

継続して事業を実施中

71.4%



中断したが別の事業を展開

14.3%

くらしとごはんリクル

「西条市SIB 丹原産はちみつ入り季節の果物ジャム開発プロジェクト」

櫻井啓太さん 櫻井明日香さん



ーSIBでのプロジェクトに挑戦しようと思われたのはなぜですか？

飲食店の経営を通して、西条市には四季折々の作物があることを知りました。お店でも地域の果物を加工し、ドリンクやかき氷を提供していました。そんな中で、多くの規格外品・廃棄される果物、販売先に困る農家さんの存在を知りました。「飲食店としての経験・技術を活かして、ジャムを製造販売し、少しでも食品ロスの軽減につなげたい。また、ジャムを通して西条の美味しい果物を知ってもらいたい。地域活性化につなげたい。」という気持ちからSIBに挑戦しました。

ーSIBに挑戦されてみていかがでしたか？

「出資者から募ったお金を使うこと」「事業に関わる人の多さ」などが事業を進める中で良いプレッシャーとなりました。一つ一つの目標を達成するための必要なプロセスを

日々の仕事の中で丁寧にこなしながら、ジャム作りと向き合いました。SIBの担当者の方々に伴走いただいている実感を持つことや、出資者の方をはじめ出資をされてない方からもお声がけをいただくことが増えました。活動に対する想いを言葉にする機会も増え、それらを実現しようと思う気持ちが活動に反映されていき、言葉の説得力が増したように感じます。より良い社会をつくるためには、まず意思を持ち、小さなことでも行動をすることが大事だと思います。皆さんのお力もお借りして、小さな渦が徐々になくなり、形となっていきました。SIBは、挑戦者の意識の変化をつくり、成長につながる機会だと思います。貴重な機会をいただき、感謝しております。



くらしとごはんリクルは、西条市の豊かな作物を使って、くらしに寄り添うジャムを開発し販売を行いました。ジャムを通して西条市をPR、販売先に困る農家への貢献、地域での雇用創出を目指しました。



ーその後の活動状況はいかがですか？ これからの活動に対する意気込みを教えてください。

ジャムの大きな動きとしては、企業様より製造委託を受けたことや百貨店のカタログギフトに選定されるなどがありました。今後の展開として、看板商品であるがんもどきやジャムづくりのための新たな工房を設け、衛生管理・製造販売管理を向上させたいと考えています。SIBを経験したことで「地域にとって」の意味を強く意識するようになりました。今後も地域に寄り添い、地域の食材を活かす料理を提供していきたいです。

◆基本情報

◆運営者	くらしとごはんリクル
◆営業者	合同会社社会的投資支援機構
◆出資金募集 最大総額	¥ 500,000 (50口) 申込上限口数3口
◆1口金額	¥10,000
◆募集期間	2019年6月19日～2019年7月19日
◆会計期間	2019年6月1日～2020年2月14日
◆償還率	101%
◆出資者数	28人

成果目標

↓
達成

- ① 開発したジャムを300個製造し販売を開始する
- ② 2名の新規雇用をする
- ③ お店に来る方を対象に試食品の提供とアンケートを実施し、結果を開発に活かす
- ④ 取組や自らの想いを伝える機会として、地域でのイベントへの出展を5回行う

たぬき本舗株式会社 「西条市SIB たぬきまんじゅう販路拡大プロジェクト」

代表取締役 森達正さん



－SIBでのプロジェクトに挑戦しようと思われたのはなぜですか？

コロナウイルス感染症拡大による地域経済の落ち込みや社会生活における意欲と気力の低下を懸念していました。また、多様化する食文化や生活による伝統ある地域文化の陰り、経営者の高齢化と後継者不足による消えゆく和菓子店と故郷の味について危機感を持っていました。90年の歴史をもつ「たぬきまんじゅう」もその例外ではありませんでした。CMソングを市民参加型で復活させ、市民の元気を取り戻すこと、また伝統ある地域のお菓子とその歴史・文化を知っていただくことで郷土愛を育み、地域の経済活動の再開や発展に寄与したいと考えました。

－SIBに挑戦されてみていかがでしたか？

事業開始時は、「応援してもらえるのだろうか」という不安は正直ありました。しかし、事業を進めていく中で応援・関

心のお声が多くあり、大変勇気づけられました。取り組み自体が話題となり、販路拡大面においても予定目標店舗数を上回る実績を残せました。また、市内のバンドや高校生による演奏は話題性に富み、YouTubeの視聴回数やテレビ・ラジオの取材依頼数からも見て取れました。そして、本事業を通じての企業信用度の上昇は目を見張るものがあり、新事業の展開に発展する可能性も期待できました。

－その後の活動状況はいかがですか？

これからの活動に対する意気込みを教えてください。

SIBを実施したことで、多くの方々の目にとまるきっかけとなりました。実際に、取引・契約、イベントの出店依頼、金融機関の連携のお話等も増え、愛媛銀行様とのつながりも密になりました。また、一番の効果として感じているのが、「会社の士気が上がった」ことです。従業員の商品を作る姿勢や営業の場においても、SIBに取り組んだという自信が活きています。

たぬき本舗株式会社は、約30年前に愛媛県内のテレビやラジオで流れていた

「たぬきまんじゅう」のCMソングを市民参加型で復活させました。

伝統ある地域のお菓子とそれにまつわる歴史・文化を発信することで販路拡大へつなげること、CMソングの制作過程を市民に楽しんでもらい地域の元気・活気を取り戻すことを目指しました。



今後の展開として、YouTube・SNS・ラジオCMを継続しながら、テレビCMも検討したいです。たぬきまんじゅうの発祥である「たぬき伝説」の伝承に努め、他地域と連携して「たぬき伝説サミット」の開催も企画したいと考えています。



成果目標

↓
達成

- ① たぬきまんじゅうにまつわる地域の人々の想いの結集：懐かしのCMソングを市民参加型で制作（復活）し、YouTube配信とラジオCM放送を開始する
- ② 地域の銘菓・たぬきまんじゅうの継承：愛媛県南予地域を中心とした販路拡大（契約店舗数10店舗）
- ③ たぬきまんじゅうの背景・「喜左衛門狸伝説」の民話伝承：地域メディアと連携した、喜左衛門狸伝説の民話伝承を伝えるための取組みの実施（1媒体）

◆基本情報

- ◆運営者 たぬき本舗株式会社
- ◆営業者 合同会社社会的投資支援機構
- ◆出資金募集 ￥500,000(50口)申込上限口数3口
最大総額
- ◆1口金額 ￥10,000
- ◆募集期間 2020年08月18日～2020年09月18日
- ◆会計期間 2020年7月16日～2021年1月30日
- ◆償還率 100%
- ◆出資者数 30人



Message 01

西条市 市民生活部長 曾我部 道昌

西条市版SIBは、従来の補助金事業とは違い、事業資金を住民による出資という応援で後押しすることから、お金の支援以上に人のつながりによる伴走支援が事業の推進力を高め、事業者や出資者の新たな気付き、さらには地域の社会課題を自分事として捉える意識を生み出しています。地域に愛着を持つ方々が、地域の社会課題を解決する一つの手段として西条市版SIBを活用し、地域の新たなチャレンジを地域で応援し支え合う、そして次なるチャレンジへと連鎖する好循環が創出されることを期待しています。



Message 04

公益財団法人東近江三方よし基金
常務理事兼事務局長 山口 美知子

これまで東近江市版SIB事業で実感してきたこの仕組みの成果(事業者や出資者の意識の変化)について、今回西条市でも確認できたことについては、大きな発見でした。この仕組みの意義を民間と行政とで理解し合い、道具として発展させていける可能性を感じました。今後、基金設立等更に地域で人とお金と想いをつなぐ仕組みがさらに進化していくことを期待しています。行財政運営が徐々に厳しくなる昨今に、本当の意味での官民連携の実現に、東近江三方よし基金も共にチャレンジさせて頂けたらと思います。

Message 02

愛媛銀行 西条支店支店長 久家浩二

西条市SIB事業は、当行、西条市、プラスソーシャルインベストメント(株)の3者が連携協定を結び、2018年度より実施している地域活性化のための特徴ある取組です。西条市様は、長年地域課題解決に熱心に取り組まれて来ましたが、SIB事業に取り組むことで全国の自治体から規範とされるようになり、さらなる地域の魅力創出につながっていると感じています。当行も、ふるさと銀行として、「オールひめぎん」で応援してきましたが、当行の取引先や地域住民の方々へ新たな金融手法を提供することで、地域金融機関としての価値創出につながっていると思います。今後ますますのSIB事業の発展を期待致します。



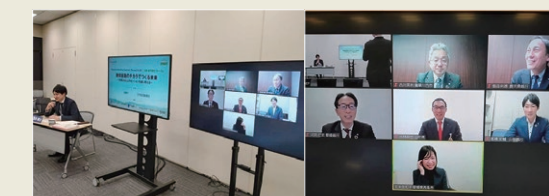
主なメディア掲載実績

◆2018年度・2019年度 国土交通省 まちづくり分野におけるソーシャル・インパクト・ボンドの活用可能性に関する検討会

◆2020年 日経BP「まちのチカラを引き出したPPPアワード 2020 SDGs賞」

◆2021年 『はじめて取り組む自治体職員のための成果連動型委託契約(PFS)/ソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)実践ガイドブック』2021第一法規

◆2022年 金融庁 Regional Banking Summit ×日経地方創生フォーラム



◆2021年 行革甲子園20201次審査突破、事例発表



① 発行者基本情報

- 発行者：プラスソーシャルインベストメント株式会社
(本社所在地：京都市上京区河原町丸太町上る出水町284番地、代表者：代表取締役 野池雅人、登録：第二種金融商品取引業近畿財務局(金商)第396号、加入協会：一般社団法人第二種金融商品取引業協会)
- 発行日：2022年3月30日
- デザイン：kicodesign
- 協力：西条市 市民生活部 地域振興課、株式会社愛媛銀行、くらしとごはんリクル、ためぎ本舗株式会社、公益財団法人東近江三方よし基金



Message 03

プラスソーシャルインベストメント株式会社
代表取締役 野池雅人

近年、日本各地でSIB事業の検討や導入が行われていますが、西条市版SIBは補助金改革、出資を通じた住民参加の視点、そして行政・地元金融機関・事業者との協働事業による実施という3点において、非常に優れた取組みであると感じています。今後もこれまでの取組みを元に、地域の新たなチャレンジを地域の皆さんで本気で支え合うための有効な仕組みとすべく、検証や学習の機会を通じてブラッシュアップしていきたいと考えています。